

掛川歴史探訪⑧

高天神兼明 ～堅城の名を持つ刀工～

☎文化・スポーツ振興課 (☎21-1158)



▲大身槍(下)と槍

難攻不落の名城「高天神城」の名をもち、同城に武器を供給した高天神兼明という刀工がいました。兼明は元々、美濃(今の岐阜県)に住んでいましたが、室町時代の1396(応永3)年に初代が、1476(文明8)年に2代目が高天神城下に移り住み、刀を作りました。兼明の名は3代続き、初代と2代目が今川家に、3代目が武田家に伝えました。中地区の屋敷跡は、市の史跡に指定されています。

江戸時代に公表された、刀の切れ味を分類した本『懐宝剣尺』の「刀剣の業物一覽」では、刀工229人を、最上大業物、大業物、良業物、業物に格付けして、兼明は大業物20工に数えられています。このことから、腕の良い刀工であったと言えます。

市内では、兼明の打った刀は確認されていませんが、槍と、通常の3倍の長さで作られた大身槍が大東図書館に収蔵されています。槍は刃の長さが6寸6分(約20センチ)、まっすぐな直槍で、



▲「高天神」「兼明」の刻み

刃の一面には棒樋と言われる装飾が施され、朱色に塗られています。また、柄に差し込む部分の莖には片面に「高天神」、もう片面に「兼明」と銘が刻まれています。何代目かを判別することはできませんが、兼明が作ったものだと分かります。

兼明の作る刀剣は切れ味、操作性に優れていたと評価されています。激戦地である高天神城にふさわしく、実用的な武器を製作していたのでしょうか。

3代目兼明は、後に武田信虎(信玄の父)から「虎」の字を与えられ、虎明と改名しています。駿河国富士郡(今の富士市)で虎明の名で作刀していることから、高天神城の攻防の中、武田軍と行動をとりにしていたのではないのでしょうか。



編集後記

新年、あけましておめでとうございます。
令和2年は新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年となり、「広報かけがわ」も情報発信の役割や方法を見直す機会となりました。今年は早期に新型コロナウイルスが収束し、オリンピックをはじめ、さまざまなイベントが開かれることを心から願います。広報取材班も、みなさんの笑顔を広くお届けできるように、日々努めてまいります。本年もよろしく申し上げます。(湯)

献血 ☎福祉課 (☎21-1140)

とき 1/19(火) 9:15~16:00

ところ 市役所北側駐車場

※使用している薬(外用薬を含む)の名前を伺います。

精神保健福祉総合相談

☎☎西部健康福祉センター掛川支所 (☎22-3263)

とき 1/12(火)、2/16(火)13:30~(事前予約制)

ところ 西部健康福祉センター掛川支所(金城)

ごみの休日受け入れ

☎環境資源ギャラリー (☎23-2273)

とき 1/9(土)・24(日)、2/13(土)・28(日)
9:00~11:30

■市の人口(12月1日現在) 人数世帯数(前月からの増減)

	男	女	世帯数
住民基本台帳人口	58,718人(-40)	58,220人(-98)	45,744(-23)
日本人	56,528人(-36)	55,975人(-47)	43,497(+39)
外国人	2,190人(-4)	2,245人(-51)	2,247(-62)



市へのご意見はこちらから